

第116回 ほほえみ 開催

11月21日（水）第116回 ほほえみを開催しました。
10名の方が参加してくれました。



【がんサロン事務局】

次回のほほえみは、12/19（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

『“頑張って”という言葉が、刃にも思えたとき』

（がん体験記）

私はこれまで「頑張って」という言葉を深く考えることなく、“励まし”であると疑わず、何度も使ってきました。

たとえば、「じゃあ、またね。頑張ってね」と別れの言葉として、またあるときは社交辞令として、それが当たり前であるかのようにです。

でも、自分のがんになって、病と闘い、得体の知れない不安と闘い、副作用のつらさと闘い…。頑張らなければがんとは闘えない。

そんなとき傷ついたのが、ひとからかけられた「頑張って!!」という言葉でした。もちろんその言葉に、悪気が込められているあるわけではありません。“エール”であることも十分にわかってはいるのです。それでも頑張っているとき、つらさと闘っているときは、こたえる言葉でした。そして、

「私もたくさんこの言葉を使ってきたなあ。知らず知らずのうちに、私も誰かを傷つけていたのかも…。」

と、過去の自分を顧みました。

「じゃあ、こんなとき、なんて声をかけられたら嬉しいだろう。逆の立場だったら、誰かになんて声をかけたらいいのだろう…。」

と考えたのです。

でも答えは出ません。“頑張って”に代わる日本語が見つかりませんでした。

ただ、言われて嬉しかったのが、「頑張ってるね」でした。個人の感じ方の差もあるとは思いますが、

『自分が言われて嫌だった言葉は、人には言わない』

そう心がけるようにしています。

そんな今では「頑張って!!」も、ようやく素直に受け入れられるようになりましたが…。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）